

見る・聴く・感じる

ドラムテーブル アクティビティ
シリーズ レッスンプラン
発達障害及び自閉症の生徒対象

イントロダクション



対象項目

コミュニケーション、学力、認知、感覚運動、社会性

スキル領域

聴覚認知、言語受容、言語表現、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、粗大運動、感覚統合

目標

参加者は、

1. ドラムテーブルと器材について学ぶ。
2. 感覚的なインプットを受け入れて処理をすることをはじめ。
3. 入ってきた情報や感覚的なインプットを処理し、それに対する感想を言語・非言語で表現する。

目的

このレッスンを通じて、参加者は次のことができるようになります。

1. ドラムとスタンドの設置と調整の方法を理解する。
2. 見る、聴く、感じるというドラムの感覚的な要素にどう対応していけばよいかを理解する。
3. 聞いたこと、見たこと、感じたことについて追及し、感想を話し始める。(視覚、聴覚障害のある参加者にも同様に適用可能)
4. ドラムテーブルをマレットや手で叩く。

教材

■レモ CST ドラムテーブル 40”
マレット 1人2本ずつ
※レモ CST ドラムテーブル 30”、
22”でも可。その場合、人数の多いグループでは交代して叩くようにする。

■ドラムテーブルアクティビティシリーズ
Videoレッスン1
comfortsoundtechnology.com/lessons (ウェブ無料公開)

音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修了した信頼の置けるプロが療法の一環として関わり、個々に設定された目標を達成するために臨床的に証明された音楽の使用を実施すること。

ご自身が認定音楽療法士であるか、認定音楽療法士と協力して行う場合、付属資料「音楽療法ガイドライン」を参考いただき、対象者へのより深い機会の提供にお役立てください。

準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。

1. ドラムとコンフォート・サウンド・テクノロジーを紹介します。言葉でのコミュニケーションに限界のあるグループでは、言葉による説明でなく簡単にやって見せるのがよいでしょう。まずドラムの前の椅子に腰かけさせて叩きはじめますが、参加者には手を軽くドラムのヘッドに置かせて、ドラムの音を聞いたり振動を感じるようにさせ「どんな感じがする？」とか、「どんな音がする？」などと質問します。その後に参加者に立ってもらいます。
2. 立って演奏するため、参加者とスタッフに見せつつ、ドラムの高さを上げて調節します。ドラムの下に一人ずつ順番に座ってもらいます。どんな体験だったかをきいてみましょう。
3. 次に、参加者にドラムを叩いてもらいながら、頭を低くしてヘッドに視線を合わせてもらいましょう。ドラムヘッドが振動してどう動いているかを見てもらいます。
4. 参加者にマレットを渡して、実際にドラムを叩いていろいろな感覚があることを体験してもらいましょう。

応用編

1. もしあれば他の太鼓を持ってきて、GST との音の違いを聴きましょう。
2. 小さいボールやタンブリン、クッシュボール、ハックサック（お手玉のようなもの）、光るボールなどをドラムの上に置いて叩いてみましょう。
3. 電灯を消すか、順番で目を閉じて、音の聞こえ方や感じ方を観察してもらいましょう。
4. その他にも光るマレット、ビーズ、ひもなど、感覚を引き出すいろいろな物使ってみましょう。

参考情報

全米音楽療法協会

<http://www.musictherapy.org/>

The ComfortSound

<http://www.thecomfortsound.com/>

REMO, Inc.

<http://remo.com/>

著作権

本印刷物の著作権は以下の個人、会社に帰属します。

内容の一部、または全部を無断転載することを固く禁じます。

著者：ジョージ・トンプソン

George Thompson

ミュージック&パフォーミング
アーツディレクター (TERI, Inc)

協力：テリー・ウィナー

Terri Wiener

MT-BC 米国認定音楽療法士
音楽療法士 (TERI, Inc)

Remo, Inc.